

## &lt;全体分析&gt;

試験時間

75分

## 解答形式

記述, 計算, 論述, 選択

## 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

## 出題の特徴や昨年との変更点

論述問題や計算過程を書かせる問題は、例年通り出題されている。

## その他トピックス

共鳴構造式の記述が問われた([3]の間6)。

教科書の発展で扱われている内容が知識として問われている([3]の間5(配向性), [4]の間3(マルコフニコフ則))。

## &lt;大問分析&gt;

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[1]	論述 選択 記述 計算	結晶 熱化学	化学	炭素の同素体(ダイヤモンド, 黒鉛)の結晶を中心に計算やダイヤモンドのC-Cの平均結合エネルギー, ハロゲン化ナトリウムの融点の順の論述などの内容である。	標準
[2]	計算 選択 記述 論述	熱化学 燃料電池 気相平衡	化学	燃料電池を中心に, 仕事率の計算, 電流効率の計算, 水の凝縮熱の考察, ルシャトリエの原理などの内容である。	標準
[3]	記述 選択 論述 計算	芳香族化合物 有機化合物の 分離 配向性	化学	芳香族化合物の構造決定を中心に, 分離, 配向性, 共鳴構造式, 分子の存在比の計算などの内容である。	標準
[4]	記述 計算	脂肪族化合物 合成高分子化 合物	化学	アセチレンの反応とその誘導体を中心に計算問題や導電性高分子も含まれている。	やや易

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## &lt;学習対策&gt;

1. 理論・無機・有機とまんべんなく学習しておくこと。
2. 論述問題が多いので、平素から書く練習をしておくこと。
3. 煩雑な計算も出題されるので、普段から筆算練習に力を入れておくこと
4. 通り一遍な学習では太刀打ちできない内容も出題されるので、問題演習を通して、思考力も養っておくこと。